


KVK ワンコックサーモスタート式シャワー KF125(Z)(G)(2)N〈各仕様共通〉 施工説明書1


施工業者様へ









施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
この施工説明書と取扱説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。
■この施工説明書はKF125N仕様のイラストで説明しています。

安全上のご注意







- ここに示した **警告** は誤った取扱いをすると、死亡または重傷に結び付く可能性があります。
 - ここに示した **注意** は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。
- いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

 この絵表示は、しては
いけない「禁止」の内容です

 この絵表示は、必ず実行して
いただく「強制」の内容です

<p>湯水を逆に配管しないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。必ず給水管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。</p>	<p>給湯温度は85℃より高温で使用しないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>85℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>加工及び接合、市販浄水器具の取り付け等の改造はしないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>
<p>給湯に蒸気を使用しないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。</p>	<p>配管などの解氷のため解氷機をご使用の場合、水栓(給水・給湯管含む)には絶対に通電しないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>通電すると水栓や給水・給湯管が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>寒冷地仕様の場合 水抜きつまみは水抜き以外の目的で開けないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>水抜きつまみをいきなり開けますと高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>
<p>温度調節ハンドルの目盛が、吐水温度と合っているか確認してください。</p> <p> 注意</p> <p>取付現場の圧力状況により目盛通りの湯温にならず、やけどをするおそれがあります。</p>	<p>ストレーナの清掃は止水弁または元栓で必ず湯水を止めてから行ってください。また、操作の際は湯側止水栓が熱くないことを確認してください。</p> <p> 注意</p> <p>高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	

警告

<p>器具に強い力や衝撃を与えないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>器具が破損し、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>めっき仕様の場合</p> <p>めっき部品は、ぶつけたり落としたりしないでください。また、鋭利な物や硬い物を当てないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>めっきの表面が割れて、けがをするおそれがあります。万一めっきの表面が割れた場合は、ただちに新しい部品に交換してください。</p>	<p>配管接続部をテーパねじに接続しないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>テーパねじに接続すると、接続部がゆるんだり、パッキンが切れたりして、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>
<p>注意</p> <p>小型電気温水器(即湯器)等に給湯ホースを接続する際は、ステンフレキ管等を介してください。</p> <p> 注意</p> <p>高温の熱により給湯ホースの寿命が短くなり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>止水栓取り付け箇所や給水・給湯管との接続箇所は、点検口を設けるなど点検しやすい状態にしてください。</p> <p> 注意</p> <p>点検ができないと万一漏水発生時には発見が遅れて家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>凍結が予想される際は、一般地仕様をお使いの場合、少量の水を出しておくか、配管に布を巻くなどして、凍結を防止してください。寒冷地仕様をお使いの場合は配管の水抜き操作と水栓金具の水抜き操作を行ってください。</p> <p> 注意</p> <p>水抜きしないと凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>

取り付け前に

- ① 使用水圧(A=(給湯器の最低作動水圧)+(配管圧力損失))
 - (1) 瞬間給湯器との組み合わせ(設定条件 水温:25℃ 給湯器温度調節:高温 吐水温度:42℃ ハンドル全開)

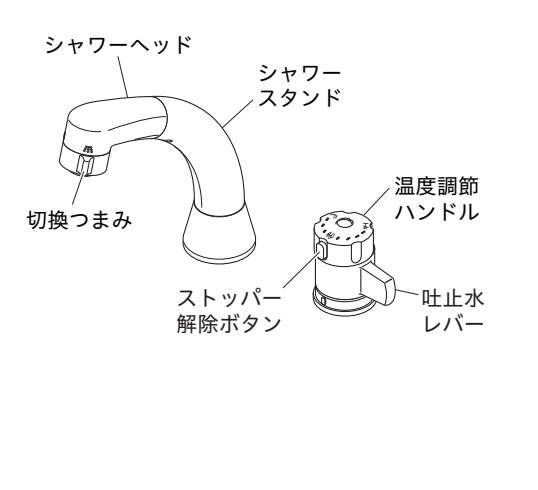
〔比例制御式〕最低必要水圧:A+50.0KPa(動水圧)、最高水圧:0.75MPa(静水圧)
 - (2) 貯湯式給湯器との組み合わせ

〔給湯・給水圧力〕最低必要水圧:A+50.0KPa(動水圧)、最高水圧:0.75MPa(静水圧)
- ② 吐止水レバーは全開で使用してください。給湯器が着火しない場合があります。
- ③ 給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。
- ④ 給水圧力が0.3MPaから、0.75MPaまでは止水弁で流量調節してください。
- ⑤ 給水圧力が0.75MPaを超えときは、市販の減圧弁で、0.2MPa程度に減圧してください。
- ⑥ 給湯器の給湯温度は、50℃～60℃に設定することをおすすめします。
- ⑦ 給湯器からの配管は最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。
- ⑧ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯器を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。
- ⑨ 本製品は、改造(加工及び接合、市販浄水器具の取り付け等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。
- ⑩ シャワーホースを伝って水がキャビネット内に浸入するおそれがあります。水受けトレーの設置をしてください。
- ⑪ 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

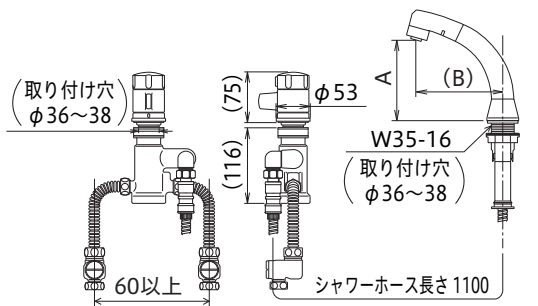
取り付け完成図と各部の名称 / 寸法図 / 分解図

この分解図は製品説明図であり、サービス部品の単位を示すものではありません。

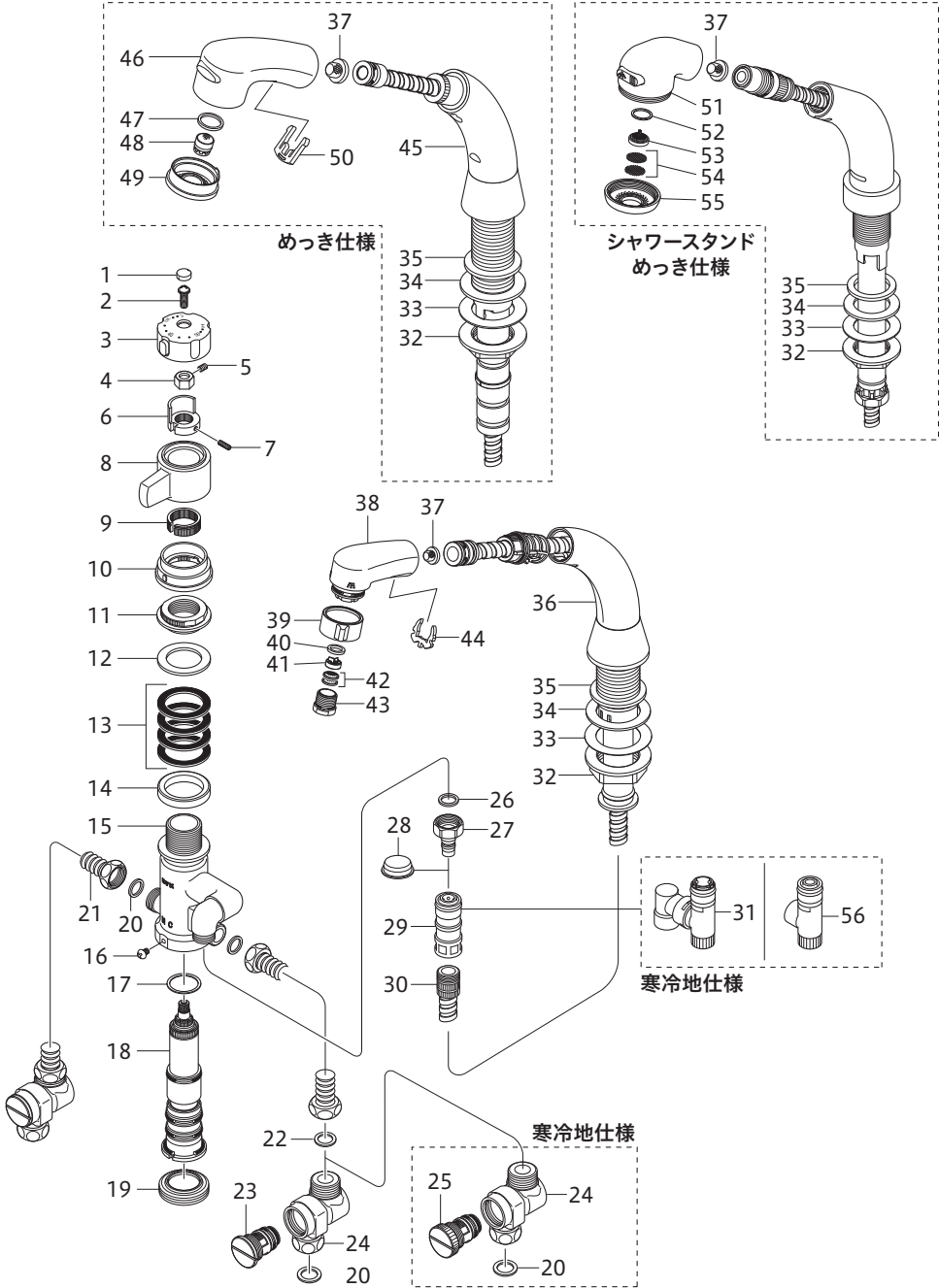
取り付け完成図と各部の名称



寸法図



仕様	A 寸法	B 寸法
材着仕様	129・199	135
シャワー・スタンド めっき仕様	145・292	135
めっき仕様	139・229	137



1	キャップ	51	シャワーヘッド
2	ねじ	52	輪パッキン
3	温度調節ハンドル	53	整流器
4	ハンドル金具	54	ストレーナ
5	ねじ	55	シャワーフェイス
6	ストッパー	56	水抜き付カブラー
7	ねじ		
8	吐止水レバー		
9	セレーションリング		
10	カラー		
11	締め付けナット		
12	シートパッキン		
13	デッキ厚調節パッキン		
14	スペーサー		
15	本体		
16	ねじ		
17	スリップ板		
18	サーモスタットカートリッジ		
19	ふた		
20	パッキン		
21	フレキホース		
22	パッキン		
23	ストレーナ付逆止弁		
24	逆止弁ユニット		
25	ストレーナ付逆止弁(寒冷地仕様)		
26	パッキン		
27	プラグ		
28	キャップ		
29	カブラー		
30	シャワーホース		
31	水抜き付きカブラー		
32	フランジ		
33	スリップ板		
34	輪パッキン		
35	シートパッキン		
36	シャワー・スタンド		
37	ストレーナ		
38	シャワーヘッド		
39	シャワーフェイス		
40	パッキン		
41	整流器		
42	ストレーナ		
43	吐水口先ジョイント		
44	クリップ		
45	シャワー・スタンド		
46	シャワーヘッド		
47	パッキン		
48	泡まつ器		
49	シャワーフェイス		
50	クリップ		

取り付け手順1

1

給水管内の清掃

配管工事後、必ず給湯・給水管内を清掃してください。

2

止水栓(別売)と逆止弁ユニットの取り付け

① 止水栓を取り付けます。

給湯管と給水管の間隔は100mm程度で取り付けます。

水受けタンクまたはトレーを設置する場合は、水受けタンクまたはトレーの寸法をご確認の上、取り付けてください。

寒冷地仕様の場合は水抜き栓付止水栓を取り付けてください。

ストレーナ付
止水栓

水抜き栓付
止水栓

止水栓
(別売)

逆止弁ユニット

止水栓
(別売)

② 逆止弁ユニットを止水栓に接続します。

【⚠ 注意】

- ・接続は適切な工具(スパナ等)で締め付けてください。
- ・締め付けトルクの目安は約2000N・cmです。
- ・締め付け不足や締め付け過ぎますと、漏水の原因となります。
- ・薄肉の接続管(ニップル等)にはジョイントを接続しないでください。
- ・パッキンが切れ、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
- ・止水栓がしっかり固定されていることを確認してください。
- ・固定されていないとフレキホースが抜け、漏水の原因となります。

3

本体の取り付け

水栓取り付け部の板厚を確認してください。

板厚が6mm以上の場合

① 下表に従って、本体に組付いているスペーサー及びデッキ厚調節パッキンの枚数を調整します。

② 本体はKVKマークを前向きにして、デッキの下からはめ込み、シートパッキンをはさみ、締め付けナットで固定します。

【⚠ 注意】

締め付けは、二面幅に合わせてモンキーレンチ等で確実に行ってください。しっかり締め付けられていないと漏水するおそれがあります。

表	板厚t (単位：ミリ)	スペーサー 有 無	デッキ厚調節パッキン 枚 数
①	6~8	有	4
	8~10	有	3
	10~12	有	2
	12~14	有	1
	14~16	無	3
	16~18	無	2
	18~19	無	1

デッキ

板厚の確認 t

取り付け穴
φ36~38

デッキ厚調節
パッキン

スペーサー

① 有無、枚数を調整

本体

締め付けナット

②-2 固定

シートパッキン

②-1 はめ込む

デッキ

6mm
以上

KVKマーク
前向き

本体

4

温度調節ハンドルと吐止水レバーの取り付け

① セレーションリングの切り欠きと、ストッパーの切り欠きが同じ位置か確認します。

ズれている場合は、セレーションリングを回し、同じ位置になるよう調節してください。

【お願い】切り欠きが同じ位置になったら、温度調節ハンドルを固定するまでセレーションリングを動かさないように注意してください。動かして位置をずらして固定すると、吐水湯温と希望湯温の誤差が大きくなります。

② カラーを取り付けます。カラー内面の突起部を、ストッパーとセレーションリングの切り欠きに通してはめ込みます。(グレーのポイントが前面になります)

③ 吐止水レバーを取り付けます。吐止水レバー内面の突起部を、ストッパーとセレーションリングの切り欠きに通してはめ込みます。(レバーは正面を向きます)

④ 温度調節ハンドルを取り付けます。温度調節ハンドル内部の切り欠きをハンドル金具の突起部(ねじ)に合わせてはめ込み、ねじで固定します。

⑤ キャップをはめ込みます。

突起部

ポイント
(グレー)

② 通す

切り欠き

カラー

ストッパー

セレーションリング

締め付けナット

突起部

吐止水
レバー

③ 通す

切り欠き

④-2 固定

⑤ はめ込む

キャップ

ねじ

温度調節
ハンドル

ハンドル
金具

突起部(ビス)

5

本体と逆止弁ユニットの接続

図1のようにフレキホースで接続します。

【⚠ 注意】

- ・接続は適切な工具(スパナ等)で締め付けてください。
- ・締め付けトルクの目安は約2000N・cmです。
- ・締め付け不足や締め付け過ぎますと、漏水の原因となります。
- ・図2のような無理な配管はしないでください。
- ・配管の抜けや亀裂や破損の原因となり、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。また、寒冷地仕様では水が抜けなくなります。

接続後、ナットが確実に締め付けられているか確認してください。

図1

図2

パッキン

フレキホース

逆止弁
ユニット

6

シャワー・スタンドの取り付け

シャワー・スタンドをフランジで固定します。

【⚠ 注意】

フランジの締め付けは、専用工具G11(別売)で確実に行ってください。しっかり締め付けられていないと、シャワー・スタンドが緩んだり、がたつきが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

専用工具
G11(別売)

取り付け穴
φ36~38

輪パッキン(黒)

スリップ板

フランジ

シャワー
スタンド

シートパッキン
(白)

取り付け手順2

7¹

シャワーホースの接続

①（一般地仕様の場合）カプラーとシャワーホースの接続が緩んでいないか確認してください。
緩んでいる場合はカプラーを手締め後、約30度増し締めしてください。
（締め付けトルクの目安は約100N・cm）

（寒冷地仕様の場合）水抜き付きカプラーとシャワーホースを接続します。
水抜き付きカプラーを手締め後、約30度増し締めしてください。
（締め付けトルクの目安は約100N・cm）

【△注意】カプラー等の接続の際は、以下の内容に注意してください。
漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
※カプラーの締め付け不足や締め付け過ぎ
※シャワーホースのセレーション部以外に工具をかけない
※シャワーホースはねじらない

一般地仕様

シャワーホース

カプラー

プライヤー等で固定

ここに工具をかける
セレーション部

シャワーホース

寒冷地仕様

シャワーホース

水抜き付きカプラー

プライヤー等で固定

セレーション部
ここに工具をかける

シャワーホース

② カプラーのキャップをはずし、スライダーを下に下ろしてからプラグへカチッと音がするまではめ込みます。（エルボ付仕様の場合はエルボが下向きになっていることを確認します。）
取り付け後、カプラー（または水抜き付きカプラー）を引っぱってははずれてないことを確認します。

下りていない状態

スライダー
↓ 下ろす
カプラー

下りている状態

スライダー
カプラー

プラグ

キャップ
はずす

カプラー

押し込む

エルボは
下向きに

カチッ

エルボ付仕様

【△注意】
カプラー取り付け後、確実に接続されているか、以下の確認を行ってください。
確実に接続されていないと、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
・スライダーが上がっていること

・カプラーを真下に引っぱってははずれないこと

7 ページ

7²

【△注意】
シャワーホースは止水栓に引っ掛けないで、給湯パイプの外側にぶらさげてください。
シャワーホースが引き出しにくくなったり、ホース損傷により漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

シャワーホース

止水栓（別売）

シャワーホース

止水栓（別売）

8

ステッカーの貼り付け

使用方法ステッカーを見やすい位置に貼り付けてください。

取り付け後の点検と清掃1

通水確認

【△注意】水栓を取り付け後、通水して湯水の出し止めを5～6回繰り返し、配管接続部及び水栓から水漏れがないことを確認してください。確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

シャワーフェイス・ストレーナ・整流器・泡まつ器清掃のお願い

シャワーヘッドのシャワーフェイス・ストレーナ・整流器・泡まつ器、逆止弁ユニットのストレーナにゴミ等がたまりますと、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。

➡ 取扱説明書「日常のお手入れ・保守」参照

サーモスタットカートリッジの清掃方法

サーモスタットカートリッジにゴミが詰まったり、水あか、汚れ等が付着した場合、吐水量が減ったり、温度調節がうまくできなくなったりしますので清掃してください。

【△注意】サーモスタットカートリッジの清掃は、止水弁または元栓で必ず湯水を止めてから行ってください。
サーモスタットカートリッジをいきなりはずしますと、高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

① 湯水両側の止水弁〔2カ所〕又は元栓をしっかりと締めて、湯水が出ないことを必ず確認してください。
【お願い】キャップをはずす際は、傷がつかないようにしてください。

② 薄手の布を精密ドライバーの先端にかぶせます。

③ 精密ドライバーをキャップの切り欠き部に差し込みキャップをはずしてから、ねじをはずします。

④ 温度調節ハンドル、吐止水レバーを取りはずします。（取り付け手順4の逆の手順を参照してください。）

⑤ ふたを取りはずし、サーモスタットカートリッジを取りはずします。

⑥ サーモスタットカートリッジをブラシで水洗いします。

清掃後は、上記と逆の手順で組み立ててください。

【お願い】取り付け後は、温度調節ハンドルの目盛と吐水温度が合っていることを確認してからご使用ください。

【お願い】
組み立て時、本体のビスと、サーモスタットカートリッジの切欠きを合わせて押し込んでください。

ねじ

合わせて押し込む

切欠き

湯側止水栓（別売）

湯側止水弁

① しめる

⑤-2 はずす

スリップ板

サーモスタットカートリッジ

ふた

⑤-1 はずす

水側止水栓（別売）

水側止水弁

① しめる

⑥ 清掃
歯ブラシなど

サーモスタットカートリッジ

③ はずす

④ はずす

キャップ

ねじ

温度調節ハンドル

吐止水レバー

切り欠き

②

温度調節ハンドルの設定方法

工場出荷時に温度調節をしていますが、取付現場の圧力状況により目盛通りの湯温にならない場合があります。温度調節ハンドルの目盛が吐水温度とズれている場合、温度調節ハンドルをはめ直してください。

―【はじめに確かめてください】―

・止水弁を全開にしているか確かめてください。

・ストレーナにゴミづまりがないか確かめてください。

・給湯温度50℃～60℃の湯が給湯できているか確かめてください。

① 全開吐水で目盛に関係なく40℃のお湯が出る所まで、温度調節ハンドルを回します。
【お願い】キャップをはずす際は、傷がつかないようにしてください。

② 薄手の布を精密ドライバーの先端にかぶせます。

③ 精密ドライバーをキャップの切り欠き部に差し込みキャップをはずしてから、ねじをはずします。

④ 温度調節ハンドルを回転させないように取りはずします。

⑤ ポイント（グレー）にストッパー解除ボタンを合わせて温度調節ハンドルをはめます。

⑥ ねじでハンドルを固定し、キャップをはめ込みます。

【お願い】取り付け後は、温度調節ハンドルの目盛と吐水温度が合っていることを確認してからご使用ください。
※ 目盛は、温度表示ではありません。目盛は、温度調節の目安としてください。

40℃

温度調節ハンドル

① はずす

③ はずす

④ 回さないように
はずす

温度調節ハンドル

⑤ 合わせはめる

⑥ はめる

ストッパー解除ボタン

ポイント（グレー）

切り欠き

ねじ

キャップ

流量の調節方法（止水栓は本製品に同梱されていません。別売です）

流量の調節は右記の方法で行ってください。

止水栓（別売）

湯側止水弁

あける

しめる

止水栓（別売）

水側止水弁

あける

しめる

図は一般地仕様です

故障かなと思ったら…

修理を依頼される前にお確かめください。

➡ 取扱説明書「故障かなと思ったら…」参照

【水栓本体内部のメンテナンスをする場合】
【△注意】修理技術者以外の方は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。
水栓本体内部のメンテナンスは、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。

9 ページ

10 ページ